

平成 19 年 3 月期 第 1 四半期決算についての補足説明

当社（東京都千代田区外神田 4 丁目 14 番 1 号、資本金 364 億円、社長：吉川 廣和）の平成 19 年 3 月期 第 1 四半期の連結決算は、売上高 1,056 億円、営業利益 114 億円、経常利益 123 億円、四半期（当期）純利益 85 億円となりました。また、連結総資産は 3,417 億円、連結自己資本は 1,158 億円、連結自己資本比率は 33.9%となりました。

前年同期比で、売上高は、製錬部門で主要メタル価格が上昇したこと、環境・リサイクル部門で順調に事業を拡大していること、電子材料部門でデジタル家電に関連する製品が堅調に推移したほか、金属加工部門、熱処理部門で自動車関連製品を中心に販売量を増やしたことにより 378 億円（+55.8%）の増収となりました。

営業利益は、環境・リサイクル部門、電子材料部門、金属加工部門、熱処理部門がそれぞれ増益となりましたが、製錬部門では、棚卸資産の評価を低価法に変更した影響や、インジウムの販売減少などにより減益となり、全体では 14 億円の増益（+13.7%）にとどまりました。

経常利益は、前年同期は持分法適用会社が固定資産の減損損失を計上したことにより営業外費用（持分法投資損失）が増加しましたが、当第 1 四半期はそれがなかったことにより、51 億円（+71.6%）の増益となりました。なお、四半期（当期）純利益は、53 億円（+161.0%）の増益となりました。

財務面では、前年度末と比較し総資産は 324 億円増加しました。これは、土壌浄化部門、工業炉での受注増加による工事仕掛の増加、主要メタル価格の上昇による原材料の増加などにより、棚卸資産が 287 億円増加したこと、また、メタル価格上昇の影響で売上債権が 132 億円増加したことによるものであります。

これらの資産の増加により、有利子負債は、前年度末から 273 億円増加し、1,269 億円の残高となりました。

1. 前年同期との比較

部門別売上高は、製錬部門は、主要メタルの販売量は前年同期並みとなりましたが、メタル価格が上昇したことにより 285 億円増収（+76.5%）の 657 億円となりました。環境・リサイクル部門は、廃棄物処理は堅調に推移し、加えて小坂の最終処理施設（グリーンフィル小坂）の処理量が増加したこと、また、土壌浄化が売上を伸ばし、リサイクル原料の集荷やシュレッターダストの処理量も増加したことにより、部門合計で 38 億円増収（+27.5%）の 175 億円となりました。電子材料部門は、携帯電話用途、PDP（プラズマ ディスプレイ パネル）やDVDなどのデジタル機器向けに、高純度ガリウム、ガリウムヒ素ウェハ、LED、銀粉などが販売量を増やし、31 億円増収（+27.5%）の 143 億円となりました。金属加工部門では、車載用コネクタ材、貴金属めっき、回路基板がそれぞれ販売を伸ばし 65 億円増収（+58.4%）の 176 億円となりました。熱処理部門は、加工部門、工業炉ともに堅調に推移し、部門合計で 14 億円増収（+33.9%）の 54 億円となりました。

部門別営業利益は、製錬部門は、主要メタル価格の上昇による増益要因がありましたが、棚卸資産の評価方法の変更による影響、インジウムの販売減少などにより 3 億円減益（△4.8%）の 56 億円となりました。環境・リサイクル部門は、廃棄物、土壌、シュレッターダストそれぞれで処理量を増やし、部門合計で 6 億円増益（+43.5%）の 19 億円となりました。電子材料部門は、半導体が堅調に推移したこと、機能材（電子材料、磁性材料）で高付加価値品の販売を伸ばしたことにより、2 億円増益（+13.0%）の 18 億円となりました。金属加工部門は、車載向けに販売量を増やしたことなどにより、7 億円増益

(+77.4%) の 15 億円となりました。 熱処理部門は、加工、工業炉ともに増益となり、3 億円増益 (+91.5%) の 7 億円となりました。

単位：億円

連結決算	A	B	増減 (B-A)	
	2005年度第1Q	2006年度第1Q	金額	率
売上高	678	1,056	378	+55.8%
営業利益	100	114	14	+13.7%
経常利益	72	123	51	+71.6%
当期利益	33	85	53	+161.0%

セグメント別 損益状況

単位：億円

	2005年度第1Q			2006年度第1Q			増減		
	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益
製錬	372.2	59.1	57.7	657.0	56.3	56.7	284.8	△2.8	△1.0
環境・リサイクル	137.3	13.3	13.4	175.0	19.1	19.1	37.7	5.8	5.7
電子材料	111.8	16.0	15.8	142.6	18.0	17.5	30.7	2.1	1.7
金属加工	111.1	8.7	8.4	176.0	15.4	15.3	64.9	6.7	6.9
熱処理	40.0	3.8	3.8	53.6	7.2	6.8	13.6	3.4	3.0
消去ほか	△94.7	△0.6	△27.5	△148.2	△2.0	7.6	△53.4	△1.4	35.0
合計	677.7	100.2	71.6	1,056.0	113.9	122.9	378.2	13.7	51.3

2. 上期決算予想との比較 (進捗状況)

2006年上期決算は、第2四半期は製錬部門での定期修繕による休転の影響がありますが、主要メタル価格が予想に対し高水準で推移していること、また、環境・リサイクル部門、電子材料部門、金属加工部門、熱処理部門それぞれで予想を上回る進捗状況となっていることから、中間期の当初予想は達成できる見込みであります。

単位：億円

連結決算	2006年第1Q	2006年上期予想	達成率
売上高	1,056	1,580	67%
営業利益	114	180	63%
経常利益	123	170	72%
当期利益	85	90	94%

セグメント別に見てまいりますと、

製錬部門は、主要メタル価格が高水準で推移していることなどにより、予想を上回る進捗状況となっております。環境・リサイクル部門は、廃棄物処理は順調に操業を続けており、土壌浄化も堅調に推移し、また、リサイクルでも取扱量の増加により、予想を上回る進捗状況となっております。電子材料部門は、鉄粉、亜鉛粉など一部の製品で販売が減少しておりますが、ガリウム、ガリウムヒ素ウェハ、LEDの半導体関連製品が販売量を増やしており、また、PDP用の銀粉、バックアップテープ向けメタル粉など高付加価値品の販売が好調で、予想を上回る進捗状況となっております。金属加工部門は、伸銅品の車載用コネクタ材、貴金属めっき、回路基板が堅調に推移しており、予想を上回る進捗状況となっております。熱処理部門は、熱処理加工、工業炉ともに堅調に推移しており、ほぼ計画どおりの進捗状況となっております。

従って、各部門それぞれ当初予想を達成できる見込みであります。

セグメント別 進捗状況

単位：億円

	2006 年度上期予想			2006 年度第 1 Q		
	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益
製 錬	829	89	83	657.0	56.3	56.7
環境・リサイクル	319	31	31	175.0	19.1	19.1
電 子 材 料	254	26	25	142.6	18.0	17.5
金 属 加 工	284	19	19	176.0	15.4	15.3
熱 処 理	112	15	14	53.6	7.2	6.8
消 去 ほ か	△218	0	2	△148.2	△2.0	7.6
合 計	1,580	180	170	1,056.0	113.9	122.9

当社グループは、新たな中期計画「事業構造改革Ⅲ～Jump up to the New Stage～」の初年度として、これまでの事業構造改革の成果をステップに、「改革の目標レベルをさらに引き上げ、未踏の領域に挑戦」をスローガンとして、更なる成長・発展を目指しております。

今後とも、事業構造改革Ⅲの方針を強力に推進し、財務体質の改善、収益体質の強化をはかるとともに、業績予想の達成に向けて全力を尽くしていく所存であります。

以 上